

## ヒラメ種苗生産試験 (要 約)

福田 慎作・田村 真通・吉田 秀雄・五十嵐 照明・中田 健一

将来、ヒラメの栽培漁業化を図る為に必要なヒラメ種苗量産技術の開発をめざすと共に、放流試験用の種苗生産試験を実施したのでその概要について述べる。なお、詳細は「昭和61年度放流技術開発事業報告書日本海ブロックヒラメ班」(昭和62年3月、青森県水産増殖センター外7機関)として報告した。

### 結果の概要

#### 1. 種 苗 生 産

- (1) 昨年度と同様に屋外コンクリート水槽(6 m<sup>3</sup>角型)で、加温区と無加温区を設けて親魚養成を行なったところ、前者で4月15日、後者で5月27日より産卵が認められ、受精卵も十分得られた。
- (2) 1～3回次で平均全長18.2～21.9 mmサイズの種苗を84,819尾生産した。生残率は21.0～30.2%と好成績を示した。
- (3) 1回次は、飼育後期(全長18mm前後)に屋外(上屋なし)水槽に移したところ、2～3日後から異常遊泳個体がみられ数日間へい死が続いた。この原因として、直射日光による生理障害が考えられた。
- (4) 4回次は、ふ化後26日目ごろから水槽内に糸状の粘液様物質(藻類?)が発生し、これに稚魚が絡み、また、5回次では腸管白濁症と思われるへい死が見られ、それぞれ薬浴処理を施したが効果は認められず2～3日後に大量へい死した。
- (5) 各生産回次で全長10 mm前後より、配合飼料を継続投与したがなかなか餌付かず、本格的な摂餌が認められたのは全長18mm前後であった。

#### 2. 中 間 育 成

種苗生産1、2及び3回次で得られた稚魚84,819尾を用いて中間育成を開始し、8月28日～9月12日にかけて91.1～112.6 mmサイズのものを27,733尾生産した。このうち、20,147尾に標識を装着して、十三湖水戸口に10,069尾、鯉ヶ沢海水浴場前浜に10,078尾放流した。

#### 3. 体 色 異 常

放流時の体色異常個体の出現率は、有眼側0.6%と極めて低いが、無眼側ではほとんどすべての個体に何らかの色素沈着がみられ、中でもa、bタイプが高率にみられた。